

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 2 報  
千葉県農林水産部  
平成 26 年 6 月 17 日

## 生育は早く、早生品種は幼穂形成期を迎えています！ 幼穂長を確認し、遅れずに穂肥を施用しましょう！

### [生育概況]

移植時期から続く高温多照傾向のため、生育の進みが早く、4月20日植えの「ふさおとめ」は平年よりも4日程度早く幼穂形成期を迎えています。6月5日頃に梅雨入りした後は、降水量が多く、中干ししにくい天候となり、草丈はやや高く、莖数は多めに推移しています。

表 1 品種別の生育状況（6月16日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	莖数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	早	やや高	やや多	並
ふさこがね	4月20日頃	早	やや高	やや多	並
コシヒカリ	4月20日頃	早	やや高	並~やや多	並
	5月1日頃	早	やや高	並~やや多	並
ふさのもち	4月20日頃	早	やや高	やや多	並
	5月10日頃	早	やや高	やや多	並

※ 過去5か年（2009～2013年）の平均値との比較  
ただし、「ふさのもち」については2010～2013年の平均値との比較

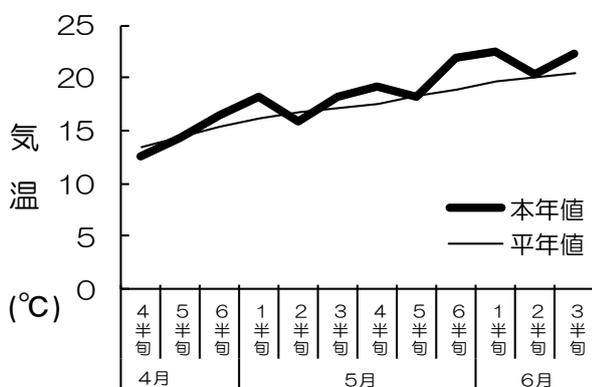


図 1 日平均気温の推移（佐倉市）

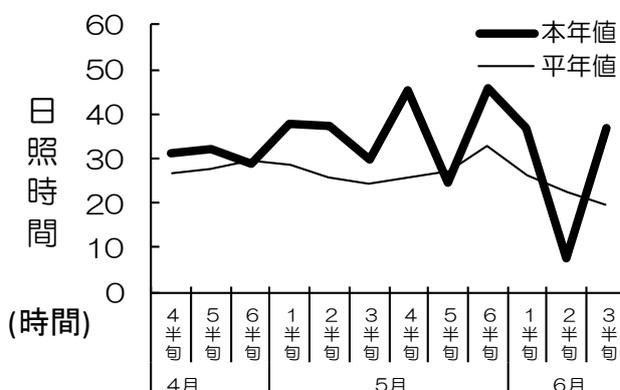


図 2 日照時間の推移（佐倉市）

表 2 品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測（月日）				冷害危険期 予測(月日)
		県北	九十九里	内湾	県南	
ふさおとめ	4月20日	6月16日	6月14日	6月14日	6月15日	6月24日
ふさこがね	4月20日	6月17日	6月17日	6月15日	6月17日	6月25日
コシヒカリ	4月20日	6月25日	6月22日	6月22日	6月23日	7月 2日
	5月 1日	6月29日	6月26日	6月26日	6月27日	7月 6日

※ 幼穂形成期予測システム（H24 千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測

※ 各地域内で最も早い予測日を記載

※ 「ふさおとめ」は実測値からの確定値

## [これからの管理のポイント]

### ■ 中干しとその後の水管理

～全量基肥（一発肥料）栽培の場合も水管理は大切です～

基本的な水管理は①～④のとおりです。特に、「③」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。「安全・安心」な米作りのために注意して管理しましょう。

- ① 土が湿って足跡が残る程度まで中干しをする。
- ② 十分に中干しができたら、出穂 3 週間前までは間断かんがいを行う。
- ③ 出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理をする。  
(幼穂形成期を確認したら、入水を開始する。)
- ④ 出穂 2 週間後から出穂 25 日後までは間断かんがいを行う。

### ■ 穂肥

生育は早く、茎数は多くなっています。幼穂長をよく観察し、葉色、茎数及び草丈から総合的に穂肥施用時期及び施用量を判断しましょう。

穂肥は籾数確保と登熟向上に必要です。近年、加里の土壌中成分量が不足している例が見受けられます。窒素と合わせて加里を施用し、健全な稲の育成に努めましょう。

### ○ 幼穂長の確認

穂肥の適期を判断するために、幼穂を確認しましょう。

ほ場の中で中庸な生育をしている連続した5株程度を選んで、各株の最長茎の幼穂長を測定します、1mmを超えた株の数が測定した株数の8割に達した日が幼穂形成期です。

穂肥の適期は品種ごとに次項以降を参照してください。

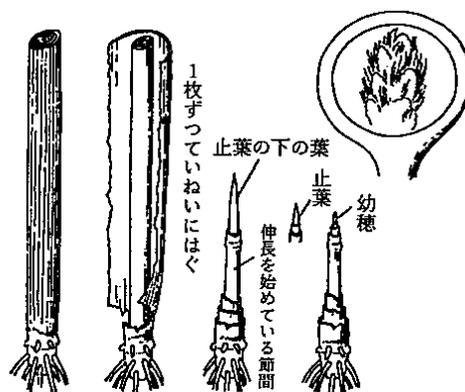


図3 幼穂の確認方法

(出典：農文協 農業技術体系作物編 P134)

## ○ 穂肥の遅れは品質低下の原因

図4は「ふさおとめ」玄米の粒厚別粗タンパク含量について、適期（出穂前18日）の穂肥と8日遅れの穂肥とで比較したものです。穂肥の遅れが玄米粗タンパク含量を高め、食味に悪影響を及ぼす可能性を示しています。

穂肥の適期施用は、収量確保だけでなく、米の品質向上の鍵を握る技術でもあります。必ず自分で幼穂長を確認しましょう。

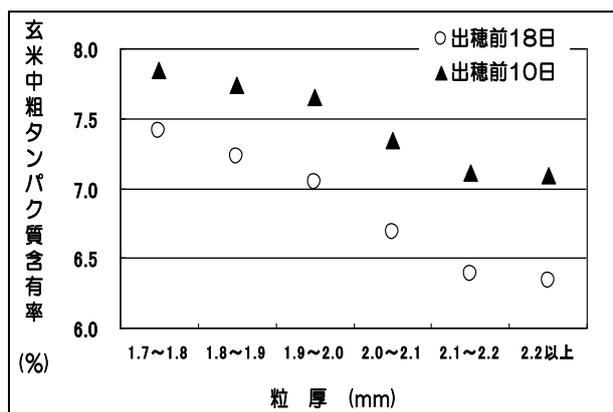


図4 穂肥施用時期と玄米の粒厚別粗タンパク含量の関係

## ○ 品種毎の穂肥の施用方法

### (1) ふさおとめ

4月20日植えの「ふさおとめ」は6月14日頃から幼穂形成期を迎えています。穂肥適期は幼穂形成期～出穂前18日（幼穂長が1mm～10mm）です。穂肥の遅れは食味低下の原因になるので注意しましょう。

施肥量は、砂質土や壤質土では窒素と加里を10a当たり成分量で各3kgです。房総南部の粘質土では1～2kgが目安です。表3の目安より茎数が多い場合は、窒素量を減らしましょう。

### (2) ふさこがね

4月20日植えの「ふさこがね」は6月15日頃から幼穂形成期を迎えています。穂肥適期は出穂前18日（幼穂長が10mm）です。品種特性上、葉色は「ふさおとめ」よりやや濃いですが、施肥量は、窒素と加里を10a当たり成分量で各3kgです。表3の目安より茎数が多い場合は、窒素量を減らしましょう。

### (3) コシヒカリ

4月20日植えの「コシヒカリ」の幼穂形成期は平年より5日程度早い6月22日頃からと予測されます。施用適期は出穂前18～10日（幼穂長が1cm～8cm）です。一部の地域で葉色が淡くなっていますが、茎数が多いので中間追肥はやめましょう。

施肥量は、砂質土では窒素を10a当たり成分量で3～4kg、壤質土は3kg、房総南部の粘質土では2kgです。加里はいずれも10a当たり成分量で3kgです。

表 3 穂肥施用の目安（幼穂形成期）

品種	草丈 cm	穂肥施用目標茎数			葉色（カラー スケール値）
		砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	55 以下	570～620 本/m <sup>2</sup> (31～34 本/株)		520～570 本/m <sup>2</sup> (29～31 本/株)	4.0
ふさこがね	60～65 以下	450～500 (25～27 本/株)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430～560 (23～30 本/株)			3.5～4.0

※ 茎数の（ ）内は 30cm×18cm で植え付けされた時の 1 株平均茎数

## ■ 低温時には湛水

幼穂形成期以降に平均気温 20℃以下の低温が続くことが予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。（冷害危険期は表 2 参照）

表 4 低温時湛水深の目安

幼穂形成期から冷害危険期まで（出穂 25～16 日前）	湛水深 10cm 程度
冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 20cm 程度

## ■ いもち病防除

梅雨期はいもち病が発生しやすく、注意が必要です。平均気温 20～25℃で曇雨天が続く場合、葉いもちの発生が懸念されます。薬剤は表 5 を参照してください。

表 5 いもち病の主な防除薬剤

作用性	薬剤名
予防	オリゼメート粒剤、キタジン P 粒剤、コラトップ粒剤 5、コラトップジャンボ、ブイゲット粒剤、フジワン粒剤、ラブサイド粉剤 DL、ルーチン粒剤
予防・治療	イモチエース粒剤、ダブルカットフロアブル、ノンプラス粉剤 DL、ノンプラスフロアブル、ブラシン粉剤 DL、ブラシンフロアブル
治療	カスミン 粉剤 DL、カスミン液剤

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで適正に使用しましょう。

## ■ 出穂 2 週間前までの畦畔雑草防除

畦畔雑草はカメムシ類が水田に侵入するのを助長します。出穂前 2 週間までに畦畔雑草を刈り取りましょう。



図5 ふさおとめ（4月20日植え）6月17日の様子  
千葉県農林総合研究センター（千葉市緑区刈田子町）  
幼穂形成期は平年より4日早く6月14日であった。